

優秀賞

Aw2407

【作品名】 コの作法

【制作者名】 石橋千郷 イシバチサト

【大学・学部】 大同大学 工学部建築学科 船橋研究室

【講評】

テレワークの普及に伴うパブリックスペースにおける個人の領域の確保を地下街の再生と組み合わせた提案。空間を家具的スケールに捉えなおし記号化することによって、人と空間の距離を近づけ、個人の居場所を構築。これを立体化して、地下街と地上とのつながりを創り出そうとする。単純なキューブでなく凹凸が魅力的な空間ヴァリエーションを創出し、家具から建築から都市までのスケールを貫通する生活 + 都市ディスプレイデザインとして評価できる。

Aw2423

【作品名】 75 分の余白-子どもの帰属意識を誘発する食空間の提案-

【制作者名】 竹内もも香 タケウチモモカ

【大学・学部】 大同大学 工学部建築学科 船橋研究室

【講評】

学校給食における食育を、より広い学びや体験、人間社会形成へと広げることを目指す提案。近接する小学校が利用できる場所に、75 分の給食時間を共用でき、様々な学習と多様な生活活動も可能な地域の拠点として子どもたちの居場所を提供。学校での給食と清掃の時間に着目したオリジナリティ高い着眼点、丁寧な分析による身体スケールに対応した細やかな設計などは、子どもの食をテーマとした生活ディスプレイデザインとして評価できる。

Aw2430

【作品名】 TORIBAKO

【制作者名】 杉村 春佳 スギムラ ハルカ

【大学・学部】 多摩美術大学 美術学部環境デザイン学科

【講評】

全国の渡り鳥観察ポイントから、立地、観察できる季節や鳥の種類、観察の難易度など、タイプの異なる 5 か所を選び、それぞれの場所に適した宿泊可能な観察施設を提案。ホテル検索サイトをイメージさせるタイトルに暗示される「鳥の渡りのように旅する」という面白い発想から、立地環境や観察方法の緻密な分析により、利用者の興味に応じて選択できる施設計画としている。人と野鳥、自然環境との対話を目指した、旅のための生活ディスプレイデザインとして評価できる。

Aw2334

【作品名】 私の図面

【制作者名】 時任結菜 トキトウ ユイナ

【大学・学部】 多摩美術大学 美術学部環境デザイン学科

【講評】

図面をインクで書くのではなく、糸で刺繍することによって、作品としての図面、図面による新たな空間体験の可能性を提示。配置図、平面図、矩計図が、一気に引くインクの線ではなく、針と糸で息継ぎを繰り返して縫い取られる。そこには作者の息遣いがあり、図面の裏側には作者の思考の軌跡が残される。壁面掲示でなく、裏からも観察できるように、空間に宙づりされた刺繍による「私の図面」は、見るものに新鮮な空間体験を提供する空間ディスプレイデザインとして評価できる。

Aw2449

【作品名】 「Tokyo Residue」

【制作者名】 中山昂祐 ナカヤマコウスケ

【大学・学部】 東京電機大学 未来科学部建築学科 建築設計研究室

【講評】

日本橋の首都高地下化による川沿いの再開発に対して、高架構造体を断片的に保存する風景の継承を提案。常盤橋をギャラリーと船着き場を持つメディアセンター、日本橋を人道橋でアクセスする船のターミナルとして計画。巨大スケールの土木構造体に対して、屋根・床・階段など建築的要素を加えることによって人のための空間機能を生み出しながら、首都高を一時代の風景として記憶にとどめようとする時代風景のディスプレイデザインとして評価できる。

奨励賞

Aw2402

【作品名】 点を線に 線を輪に 地域に根差したフリースクールの設計提案

【制作者名】 宇田川智子 ウダガワサトコ

【大学・学部】 京都女子大学 家政学部生活造形学科 井上えり子研究室

【講評】

京都東山の敷地に、路地が組み込まれた施設計画によって、地域社会に根差したフリースクールを提案。「個々の空間（点）を路地（線）で繋ぎ、その空間から心の繋がり（輪）が生まれる」という理念で、地域とのつながりを構築しようとしており、「同じ空間にいただけで言葉がなくても誰かと繋がっていると感じさせる空間」を目指して、インテリア空間をきめ細かく具体的に提案している。社会的意義のある生活ディスプレイデザインとして評価できる。

Aw2404

【作品名】 駐車を巡る建築を巡るー駐車場と建築の関係性を再考したロードサイド建築ー

【制作者名】 川合海聖 カワイミサト

【大学・学部】 大同大学 工学部建築学科 宇野研究室

【講評】

景観に配慮して、駐車スペースを敷地内側に配置した、界隈性のある道の駅の提案。交通施設としての利便性を優先せず、歩行者空間、街並み景観を優先して、観光物販施設のみでなく、地域住民のコミュニティ施設も加えて提案。大きな駐車場に囲まれた従来の道の駅のイメージに対して、分散した建築群と緑地に囲まれた新しい施設イメージによって、地域の街並み特性をアピールする生活+都市ディスプレイデザインとして評価できる。

Aw2417

【作品名】 3-dimensional input device

【制作者名】 田中 颯 タナカ ソウ

【大学・学部】 多摩美術大学 美術学部統合デザイン学科

【講評】

新たな入力装置として、3次元空間上のモノを任意の位置で固定できるインプット装置/コントローラーの提案。試作作品は、立体フレーム内のコントローラーが、ワイヤー・滑車・おもりのバランスで保持され、スムーズな操作で、音を奏でる楽器のような装置。出力に映像も加えたゲームコントローラー、ドローンやロボットなどの動作コントローラーとすることも期待され、インタラクティブな空間ディスプレイのための装置の提案として評価できる。

Aw2446

【作品名】「町の畳み方」

【制作者名】木村 愛 キムラ アイ

【大学・学部】東京電機大学 未来科学部建築学科 建築設計研究室

【講評】

人口減少に伴う公共施設の運営維持の負担軽減に対して、折り紙のように畳むことができる建築を提案。奥多摩の小学校を事例に、老朽化に対しての耐震補強や改修と合わせて、校舎を町の軸上に位置付け、運動場を囲む円弧上に地域に開いて、分散している役場や図書館などコミュニティ施設機能を併合してゆくことによって、人口規模に応じた公共施設へと減築改修する計画案。未来を構想した生活ディスプレイデザインとして評価できる。